

諏訪地方社保協ニュース

政権交代で国民のための社会保障を

第4回総会開催



再建第四回総会の記念講演は「『政権交代で国民本位の社会保障制度をつくらう』」と題して、金沢大学名誉教授の井上英夫氏に人権としての社会保障についてお話いただきました。

北欧やヨーロッパ諸国では長い歴史の中で人権や社会保障が確立し、労働運動や社会活動が当たり前のようになり、それを機能的に紹介され、それに対して、「日本は『自助・共助・公助』という順番で自分と家族のことは自分たちでやれ、それ

がでなくなったら公が助けてあげる（公助）という考えです。何でも自己責任でということになれば社会保障は必要ない社会ということになる。国の施しのよいうな公助ではなく、権利としての社会保障制度を確立して、自分や家族、地域住民の生活を守ることが必要である。」と話され、さらに「軍事費と社会保障は両立しない。現状を厳しく認識する必要がある。」と強調しました。

私たちにとつての社会保障とは何か。「自己責任論」が横行する日本社会の中でもう一度人権としての社会保障についての考えを新たにしました。

また、先生の言われる通り安倍政権は社会保障を縮小、軍事費は五兆円を突破して増加させています。私たちにとつての社会保障確立のために安倍政権の打倒が必須です。

新しい闘う方針を確認

総会では一年間の活動と決算についての報告と来年度方針、予算を提案。昨年引き続き、新たな展開となった「窓口無料化の運動」「介護保険と新総合事業

の問題」「社会保障の拡充と生存権を守る闘い」「社保学校の充実」「組織強化」などの提案が採択されました。

総会は暴走する安倍自公政権による人権を無視した社会保障解体攻撃と憲法改正を許さない運動を全国や県社保協、地域の諸団体・個人と団結してすすめていくことを確認し合うものとなりました。

国民健康保険が変わる！

政府は二〇一八年四月から国民健康保険の運営主体を市町村から都道府県に移行することを決定しました。

医療給付費の大部分を占める国保を都道府県単位化し、医療費と保険料をリンクさせ、医療費削減を強制すること

が最大の目的です。保険料の引き上げが各地で検討され、実施後の受診抑制が心配されています。その動向とたたかいについて県社保協主催の学習会が下記の通り開催されます。

長野県社保協 2017 年度国保連続学習会 第2講座
 “払える保険料”と“窓口負担の軽減”めざして
 ～国保都道府県単位化の動向とたたかいの課題～

2017年11月19日(日)9:30～12:00
 松本駅前会館 4階大会議室

(松本市深志2町目3番21号 電話0263-33-2966) 案内図裏面

国保単位化の動向とたたかいの課題を共有します

1. 長野県国保の県単位化は何をもたらすか(県社保協・国保部会)
2. 本年度市町村国保アンケート結果分析(長野県保険医協会)
3. 自治体キャラバンの成果とたたかいの課題(長野県社保協)
4. いくつかの市町村国保の事例・特徴報告(依頼中)
5. 改善に向けての意見交換(自由発言)

入場無料
 どなたでも参加できます。



主催：長野県社会保障推進協議会(連絡先：長野市高田中村276-8 県労連会館1階 TEL026(223)1281)

左は県社保協の案内チラシ、みんなで学びましょう。

今回選出された 新常任幹事のみなさん

会長	毛利 正道
副会長	平松 敏朗
同上	武藤 保進
同上	今井 洋一
事務局長	村田 暁史
事務局次長	酒井 真吾
同上	布施谷 真吾